

養殖アカモクの収穫が最盛期を迎えました

2 月 1 日より、養殖アカモクの収穫が宮津市養老地先で始まりました。今期もアカモクの生育および生残は順調で、収穫量は 4 年連続で 10 トンを上回る見込みです。収穫作業は、3 月中旬頃まで継続予定です。

2 月中旬～下旬には、来年度のアカモク種苗生産に向けて、成熟したアカモク母藻から種(幼胚)を採取する作業を実施し、約 400 万個(約 5 万本の種苗が生産可能)の種を確保しました。種は、種苗生産を開始する 5 月頃まで当センターの冷蔵庫で大切に保管します。

海藻類は二酸化酸素の吸収源となることから、アカモクの養殖は地球温暖化対策においても注目を集めています。アカモク養殖が食用としてのみならず、京都府内の温暖化対策の取り組みの一例ともなるよう、引き続き安定した種苗の供給と生産振興に取り組んでいきます。



ドローンによる養殖施設の空撮画像



アカモクの種(倍率 20 倍)